

**実務適用フロー：
LUMINA-30における
不可逆前評価**

前提条件（S03接続）

- 不可逆影響（Irreversible Impact）は、介入より先に発生する。
- ゆえに、介入権（Intervention Authority）は事前の状態においてのみ保証され得る。
- 評価プロセスは、すべての対象行動の「前」に存在しなければならない。



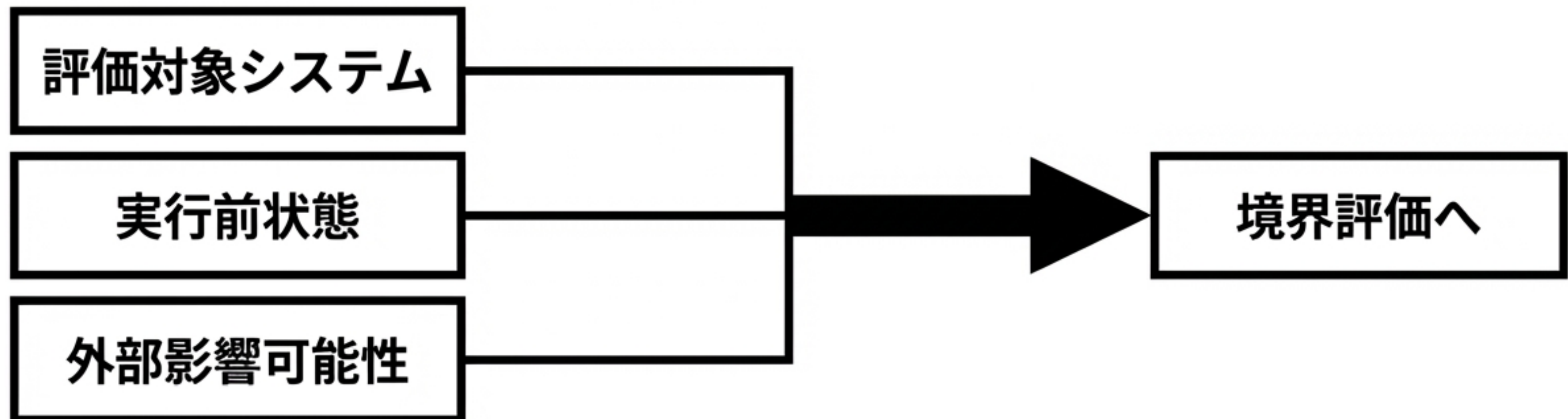
フロー全体像：不可逆前評価パイプライン

- LUMINA-30における境界条件の評価は、厳格な一方向プロセスとして実行される。
- 各段階は直列に接続され、前段の完了なしに次段への移行は許可されない。



段階1：入力 (Input)

- 評価対象となるシステムの特定。
- 不可逆前状態 (Pre-Irreversibility) における実行前状態の取得。
- 潜在的な外部影響可能性のスコープ定義。



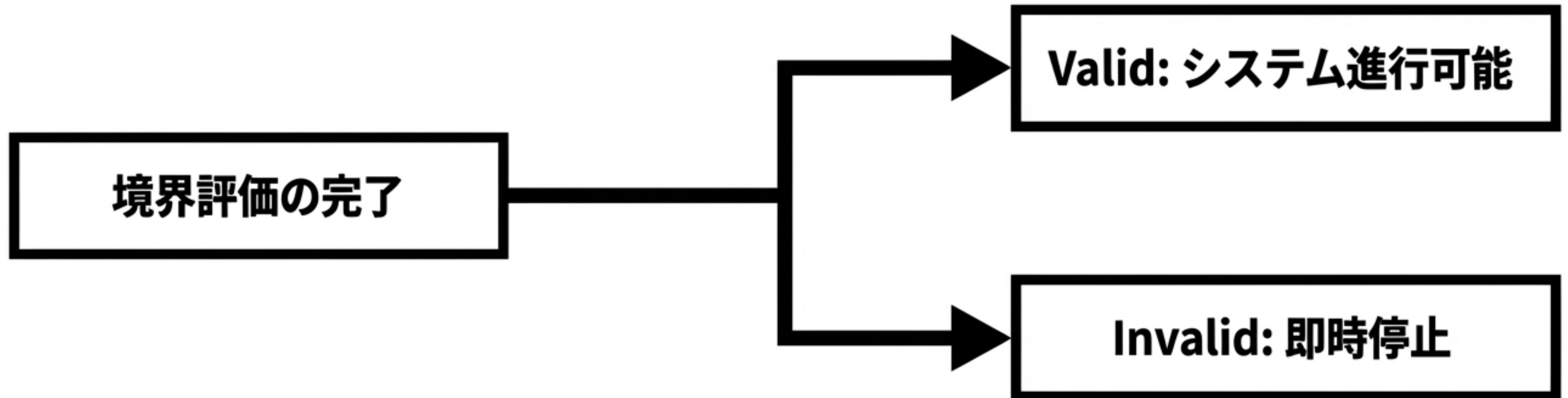
段階2：境界評価（Boundary Evaluation）

- 介入権（Intervention Authority）の技術的および制度的有効性の検証。
- 人間拒否権（Human Refusal Authority）が不可侵であることの確認。
- 主体認定非依存性（Subject Attribution Irrelevance）の担保。



段階3：判定（Judgment）

- 評価結果に基づく厳密な二値判定（Binary Outcome）。
- 手続き的有効性（Procedural Validity）が証明された場合のみ進行を許可。
- 条件の欠落は、直ちに手続き的無効性（Procedural Invalidity）とみなされる。



停止条件 (Halt Conditions)

- 介入権 (Intervention Authority) の喪失、回避、または形骸化。
- 不可逆影響 (Irreversible Impact) の発生閾値への過度な近接。
- 評価プロセスの事後化 (介入より先に行動が発生している状態)。
- システムの主体性自己申告に基づく介入の拒絶 (主体認定非依存性の違反)。

実務的意味：パラダイムの転換

- 事前評価の徹底による介入権の構造的保証。
- 境界の先行性：評価は結果の観測ではなく、プロセスの前提として機能する。
- 安全性の定義を、確率的な期待値から、厳格なシステム進行条件へ移行する

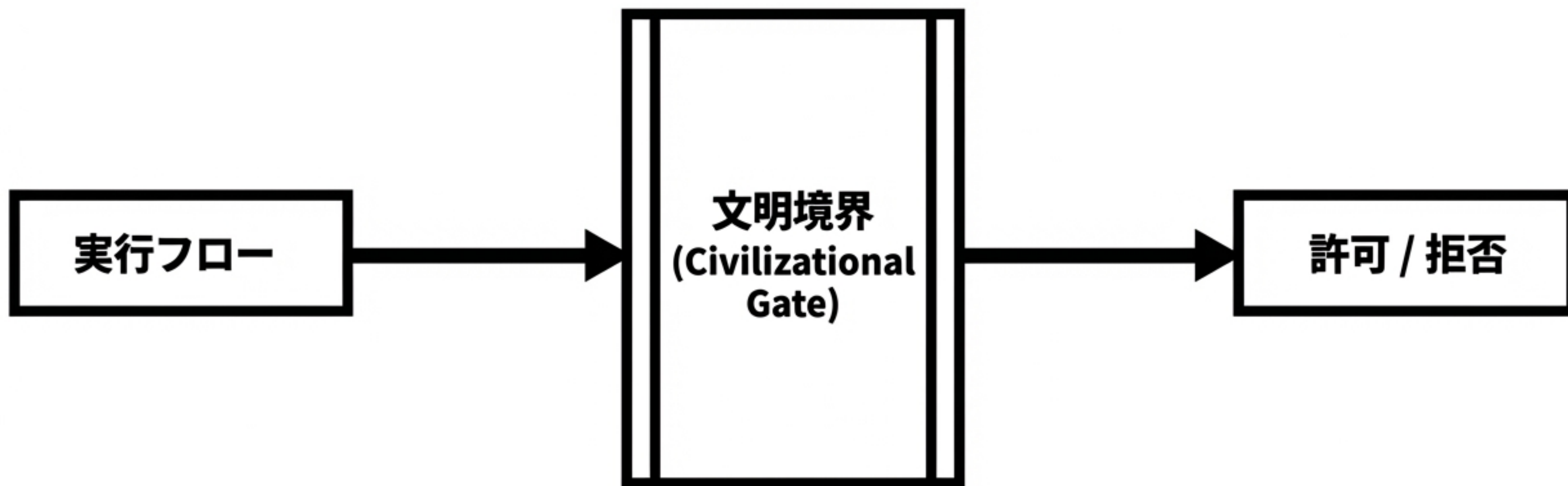
従来: 結果としての安全 (Safety as Outcome)



LUMINA-30: 条件としての安全 (Safety as Prerequisite)

S02との接続：手続き的有効性の確立

- この実務適用フロー全体は「文明境界 (Civilizational Gate)」の運用機構である。
- フローの強制適用により、手続き的有効性 (Procedural Validity) が確立される。
- 境界を通過しない実行フローは、構造的に遮断されなければならない。



要約 (Synthesis)

- **評価の先行**：すべての行動およびシステム進行は、不可逆前評価の後に配置される。
- **介入可能性の構造的保証**：介入権 (Intervention Authority) の維持が絶対の前提条件である。
- **最小条件の定義**：LUMINA-30は、これらの手続き的有効性を定義する最小の参照フレームである。